全日中「北海道大会」第３分科会「道徳教育」

1. 研究題

よりよく生きようとする意思や能力を育む道徳教育の充実

1. テーマ

人間性豊かで心身ともにたくましい、実践力のある生徒の育成

1. 発表者

香川県高松市立紫雲中学校長 溝渕隆弘

１　はじめに

 　発表者の前任校である高松市立牟礼中学校での実践。牟礼中学校は高松市の東部に位置し、校区内に四国遍路札所八栗寺、源平合戦史跡、イサムノグチ庭園美術館、庵治石加工所等、歴史・文化・産業・観光の資源が豊富である。教育熱心な地域であり、学校の教育活動についても非常に協力的である。教職員の若返りが進み、全体の約半数を３５歳以下が占め、機動力があり何事も前向きだが一方で保護者・地域社会への対応、生徒指導対応等の経験値が不足しており、学年主任や管理職が適切にサポートすることでよりよい教職員集団として機能することを目指している。

２　研究の概要

　全国学力・学習状況調査や香川県学習状況調査、校内での生徒質問紙アンケートから、将来に希望をもてない生徒や自分の思いをうまく伝えられない生徒、自分に自信がもてない生徒の割合が高い結果であった。そこで学校がすべての生徒にとって居心地の良い場所となるよう、「仲間づくり」を中心とした学校全体の取組を始めた。

３　具体的取組と校長の役割

1. 見える化

　・年間指導計画の職員室掲示

・指導案や教材のパソコン内のフォルダによる共有

　・生徒へのオリエンテーション（学習項目や重点項目および評価について）

1. 学校行事との関連

　・体育祭、合唱コンクール、職場体験、修学旅行等に合わせ各行事に沿った年間指導計画

1. 対話活動による実践力・表現力の育成

　・「ほっとトーク」：月に２回程度朝の短学活で時間を設定し、自分の考えを発表し合う。

1. 学校経営方針の明示

　・簡潔明瞭なスローガンと指導助言

　・「ともに学び、ともに高める」

→生徒同士、生徒と教師、教師同士

→教師同士がともに学びともに高めあう姿勢を率先垂範する

1. 地域の教育資源の再発見

　・地域と連携し、生徒が地域に貢献する取組

　　→親子ふれあい奉仕活動、植栽活動、ふるさと学習、職場体験学習、交通安全運動などを共同で行う

　・保護者や地域への情報発信と啓発

　　→各種たより、ＨＰ、ブログ、学校運営協議会での報告等

４　成果と課題

1. 成果
	1. 教師の生徒に寄り添う姿勢や実践
	2. 生徒会活動やボランティア活動の活発化
	3. 生徒の自己肯定感と地域の一員としての自覚の高まり
2. 課題
	1. 評価についての検討は今後も必要
	2. さらなる実践の積み重ね
	3. 地域との連携の調整やコロナ禍の中での交流のありかた

５　講評　美馬市立脇町中学校長　横畠道彦

　本実践を通して、弱い立場にある人に寄り添い、誰もが居心地よい思いやりのあるあたたかな学校づくりの気運が高まったのは何よりの宝となる。校長として学校として推進すべきことを明らかにすることは大切なことであり、溝渕校長はそれをわかりやすく経営方針として年度当初に職員に簡潔明瞭なスローガンで示して実践している。また地域と連携することで生徒の自己肯定感と地域の一員としての自覚を高めることに成功している。これからも本研究の成果を継続し、一貫し、そして共感し、同化していくことが大切である。

報告者：鈴木　茂（所沢・柳瀬中）